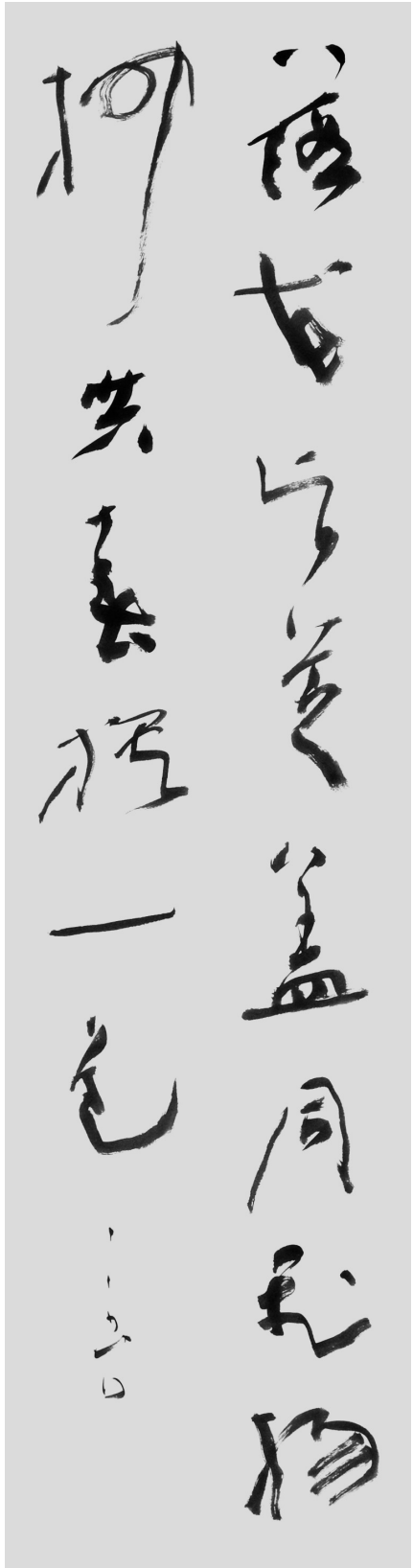


7月25日正午必着

明石春浦先生書



落花與芝蓋同飛。

楊柳共春旗一色（庾信）

落花はのかさと共に飛び、楊柳は春旗と同じく青い色をしている。

明石幸子書

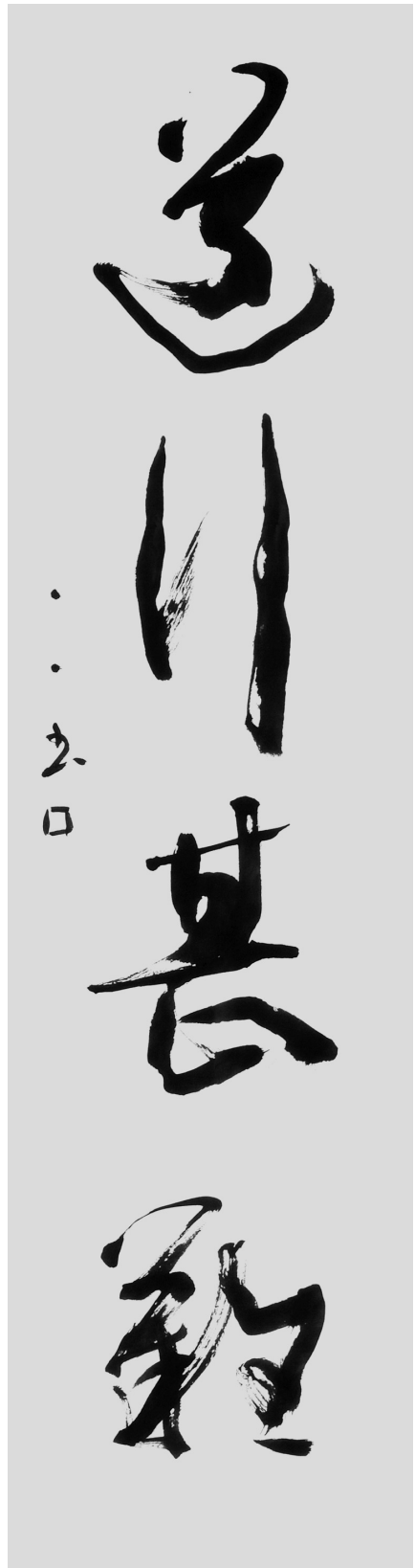


青海孤雲盡
高樓人不寐

天山片月寒
半夜望長安

（柳川三省）

閑塞を守っていて、四方を見渡せば青海の辺りには、孤独なる雲も飛び去り、また天山の上に、一片の月影寒し。高い望楼にあっては寝ることもなく、夜中に長安を望んで、我家を憶う。



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

道行甚難

(白居易)

道を實行することは、とてもむずかしい。

清風入梧竹 (楊師道)

清風梧竹に入る。

すずしい風が梧(きり)や竹にそよぐ。

朝飲木蘭之墜露兮 (楚辭・離騷)
夕餐秋菊之落英

朝に木蘭の墜露を飲み、
夕には秋菊の落英を餐う。

朝には香高い木蘭のしたたる露をのみ、夕には秋菊の散り落ちる花びらをくらう。

下方 (司空図)

三十年來往 中間京洛塵

三十年來往す 中間京洛の塵

倦行今白首 歸臥已清晨

行に倦みて 今白首 歸臥して 已に清晨

坡暖冬生笋 松涼夏健人

坡は暖かくして 冬も筍を生じ 松は涼しくして 夏人を健かにす

更慚徵詔起 避世迹非眞

更に慚ず 徵詔せられて起つを 世を避くるも 迹 真に非ず

ここかしこ 岸根のいばら 花咲きて 夏になりぬる 川ぞひの道

(木下 幸文)

半紙部規定課題A

7月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書



草書

行草書

回れる塘つたには、越この地の水が分れて流れており、年古としふるりた樹々には、呉ごの地の煙けむりがいつぱいにむらがる
竹たけは地を掃はらうかのように揺れて、席しきを敷くように催促するし（池塘いけぢやうのほとりには）蘿れんが垂れ下り、船ふねをつなぐのを待つ
ているかのよう

鳥とりははじけたばかりの栗くりの実をのぞきこみ、亀かめはなかなば傾かたむいている蓮れんの葉はの上うへにあがる
帰かへることを忘れてしまうこの庭園ていゐんをしばしば訪まねるたびに、俗事ぞくじに束縛そくわくされているこの身を思い、深ふかいためいきをつ

秋日過しゅうじつ徐氏園林じょしえん 包佶ほうぎ

回塘かいぢやう分越水ぶんこすい

古樹こじゆ積呉煙せきごえん

掃竹そうちく催鋪席さいふせき

垂蘿すいれん待繫船たいけんせん

鳥窺とりぞら新罇栗しんづんくり

龜上半かめかみ敵蓮てきれん

屢入忘歸地るいにんぼうき

長嗟俗事牽ちやうさぞくじけん

秋日しゅうじつ徐氏じょしが園林えんりんに過よる

包佶ほうぎ

回塘かいぢやう 越水えつすいを分わかち
古樹こじゆ 呉煙ごえんを積つむ
掃竹そうちく 席せきを鋪しかんことを催うながし
垂蘿すいれん 船ふねを繫つなぐことを待まちつ
鳥とりは窺うかがう新あたらしに罇くり栗くり
龜かめは上うへる 半なかば敵てきつ蓮れん
屢しばしば帰かへることを忘わすれる地ちに入り
長ながく嗟さす 俗事ぞくじに牽けんがるること

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より



魏故中書令秘書監使持節督兗州諸
魏の故中書令・秘書監・使持節・督兗州諸
諸

7月25日正午必着

魏故中書令秘書監
使持節督兖州

魏の故中書令・秘書監・使持節・督兖州（諸軍事）

兖州諸
軍事

兖州諸軍事

北魏 鄭道昭・鄭羲下碑

山東半島の北岸から南へ下った所に雲峰・寒同・太基・天柱の諸山が連なるが、ここに北魏時代を代表する能書、鄭道昭の摩崖碑を数多く見ることが出来る。鄭羲下碑はその中の一つで、鄭道昭が父鄭羲の事跡などを後世に伝えるべく摩崖に刻した頌徳の碑である。最初に天柱山の高く険しい岩壁に刻したが、更に良い場所を求めて雲峰山の崖石に彫り直したものである。

鄭道昭は、幼少より学問を好み群書を博覧したといい、自ら中岳先生と号した。とりわけ晩年は道教の熱烈な信徒だったらしく、数々の役職に就くもその行政は法律主義を排した寛容なやり方で市民の信望を得たという。鄭羲下碑は、高さ約二m、幅約三・四mの碑形に刻されているが、摩崖への揮毫・刻字の労力は実に辛苦であったにちがいない。鄭道昭の書は一点一画に気を配った沈着な用筆、しかも謹厳、緊張のうちにゆとりのある書き方で、あくまでも精妙である。波打つように引く横画、伸び伸びとした波法、大きく肩をうねらせる冠など、その筆法は北魏らしい雄勁さに満ち、同時に特異な暢達さを交えている。

世に、同時代の書聖王羲之の書を『書齋芸術の華』、鄭道昭のそれは『野外芸術の精華』と評されるが、まさに楷法の善美を尽くした姿を遺したと言っても過言ではないであろう。（春廣）

7月25日正午必着

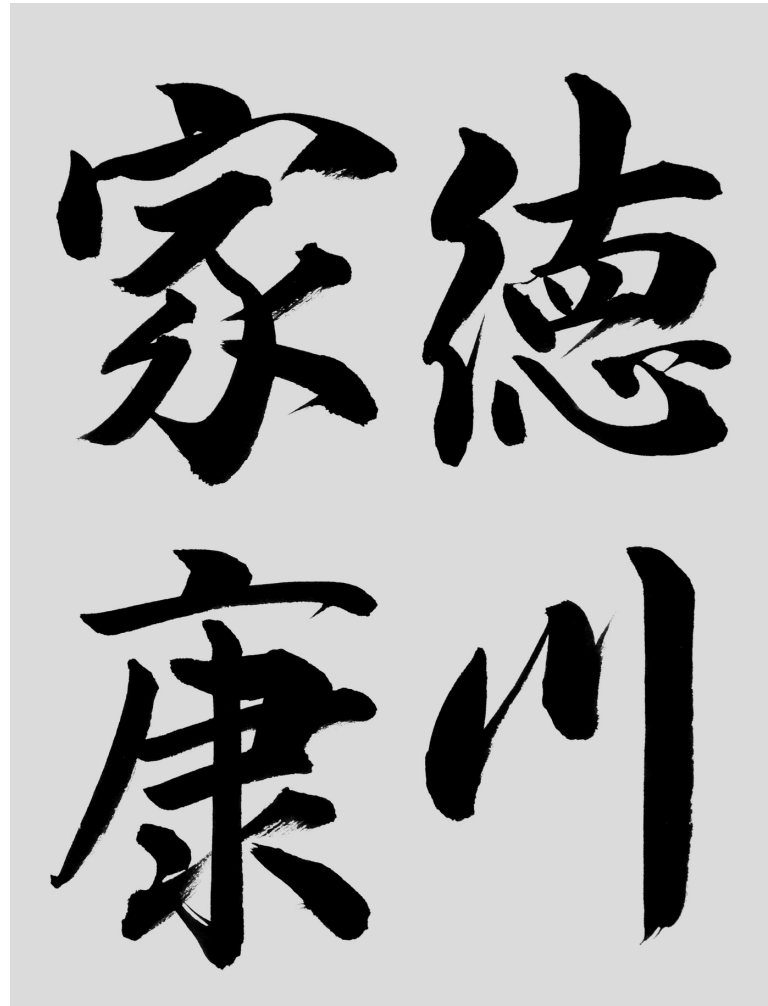
教育部毛筆



雨宮春聲先生書

れっしゅ たび
列車の旅

中学一年



菅井松雲先生書

とく がわ いえ やす
徳川家康

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



おおきななみ
大きな波

小学五年

榎戸春龍先生書



はなしょうじょ
花と少女

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

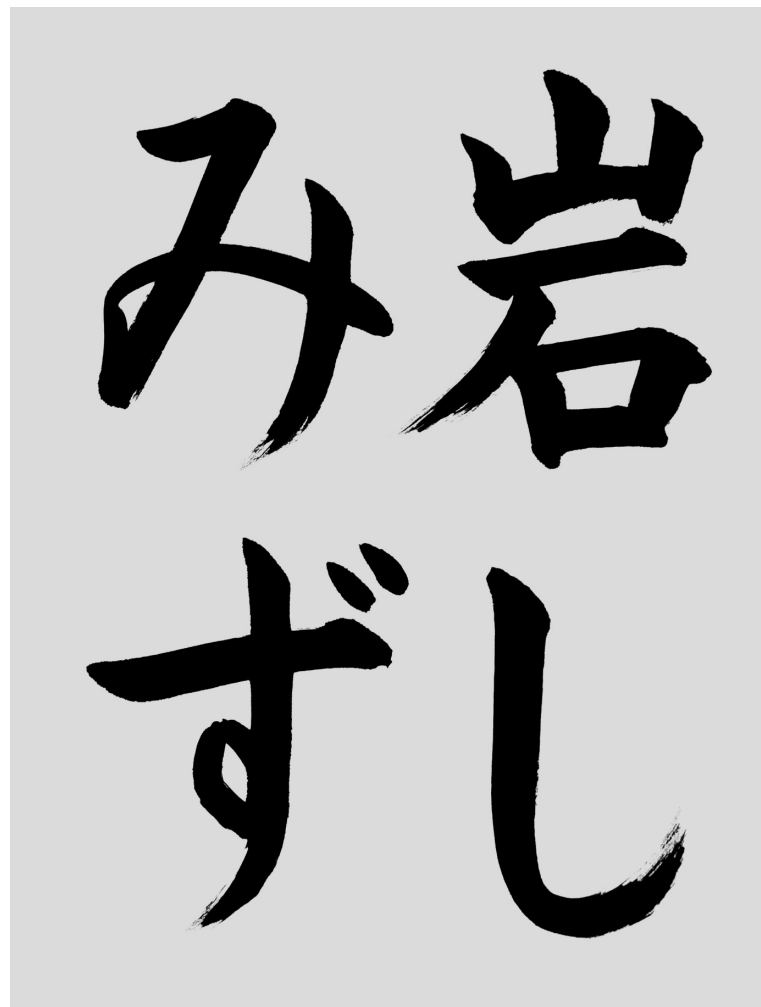
7月25日正午必着



藤田幸春先生書

えだ ^{まめ}豆

小学三年



細谷春誠先生書

^{いづみ}岩しみず

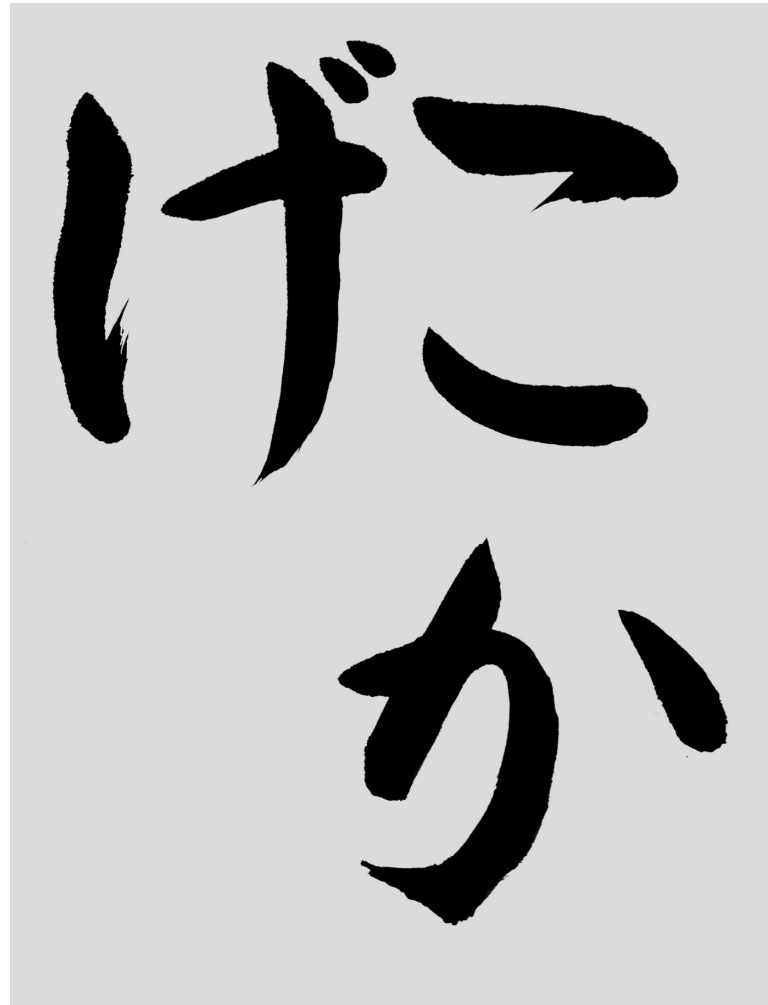
小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

と り 小学一年・幼年



森戸春濤書

こ か げ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

| | |
|----------|----------|
| こる大きな入道雲 | もくもくとわき起 |
|----------|----------|

小学五年

| | |
|-----------|-----------|
| 照り出すと夏本番だ | つゆが明けて太陽が |
|-----------|-----------|

小学六年

| | |
|-----------|------------|
| 夜中までの時間です | 夏の宵とは日ぐれから |
|-----------|------------|

中学

| | |
|----------|-----------|
| く風流な夏の慣習 | 短冊に願いごとを書 |
|----------|-----------|

一般(級位)

| | |
|----------|------------------------|
| 待たぬ寝ざめの人 | ほととぎす 暁かけて鳴く聲を待たぬ寝ざめの人 |
|----------|------------------------|

一般(段位)

ほととぎす 暁かけて鳴く聲を待たぬ寝ざめの人や聞くらむ(藤原伊家)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

| | |
|---|---|
| あ | た |
| ま | な |
| の | ば |
| が | た |
| わ | ま |
| | つ |
| | り |

幼年

| | |
|---|---|
| あ | に |
| さ | わ |
| が | に |
| お | |
| の | さ |
| 花 | い |
| | た |

小学一年

| | |
|---|---|
| 五 | か |
| 色 | ぜ |
| の | に |
| た | ゆ |
| ん | れ |
| ざ | る |
| く | |

小学二年

| | |
|---|---|
| な | ほ |
| が | し |
| れ | 空 |
| る | の |
| 天 | な |
| の | か |
| 川 | を |

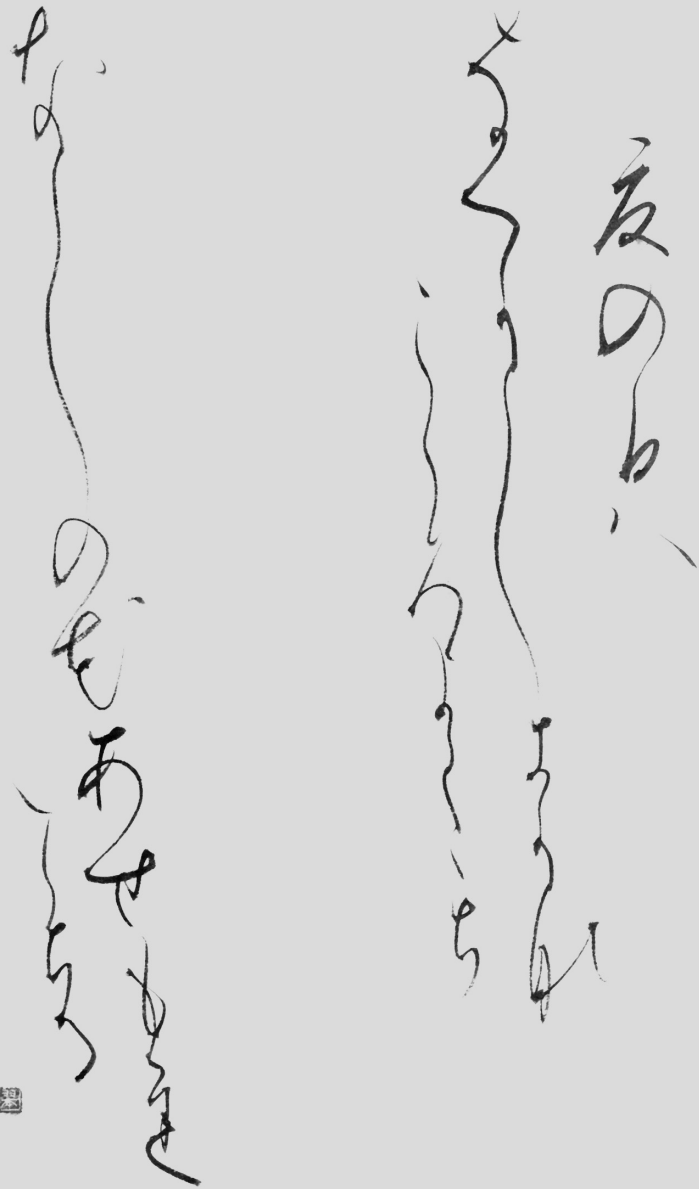
小学三年

| | |
|---|---|
| よ | セ |
| ば | 夕 |
| れ | は |
| て | 星 |
| い | 祭 |
| ま | り |
| す | と |
| | も |

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



夏の日はなつかしきかな
 八奈可支可那
 ころよくちなしの花
 あせもちてちる
 運天
 (北原白秋)

松永翠舟先生書